

## 『朝霞市まち・ひと・しごと創生総合戦略』（平成 28 年 2 月）抜粋

## 3-2. 総合戦略に取り組んだ場合の将来人口の展望

本市の総人口は、今後も一定の期間は緩やかに増加し、その後減少する局面が訪れることが見込まれている。人口のピークと人口減少のペースは、転入・転出による「社会移動」と「合計特殊出生率」の2点をどのように想定するかによって大きく変動する。社会移動と合計特殊出生率との幾つかの組み合わせを設定して、将来の人口の見通しについてシミュレーションした結果を以下に示す。なお、いずれも平成 27（2015）年 1 月 1 日までの住民基本台帳人口及び外国人登録人口の増減数を加減したデータを用いて推計を行っている。

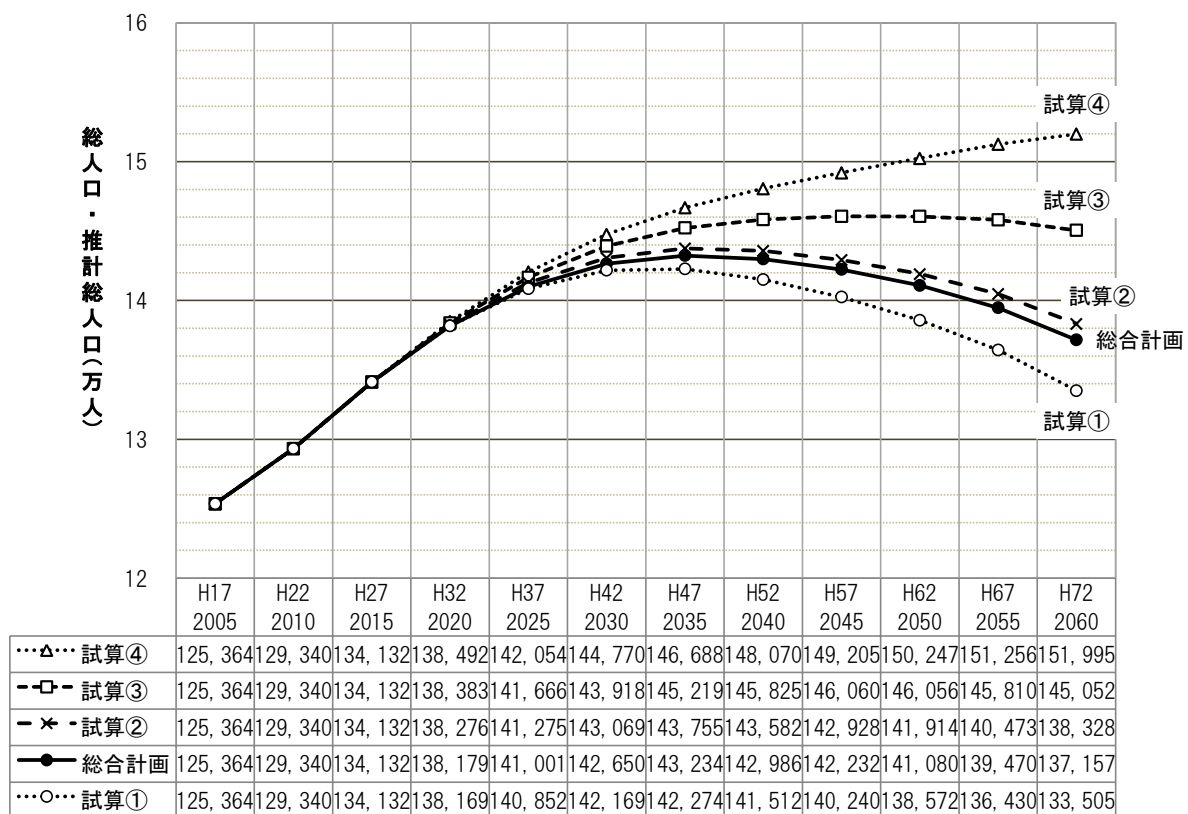


図 1：将来人口推計

本市では、既に、市の最上位計画である第 5 次朝霞市総合計画において、平成 25（2013）年 1 月 1 日までの住民基本台帳人口及び外国人登録人口の増減数を加減した実測値を用いて、平成 42（2030）年までの将来人口推計を示している。今回新たに平成 27（2015）年 1 月 1 日までの 2 年分の最新の実測値を追加し、第 5 次朝霞市総合計画の策定時点における推計モデルと同じモデルを用いて、仮に平成 72（2060）年までを試算した場合、13.7 万人の総人口が見込まれる（図 1 の「総合計画」）。

一方、第 5 次朝霞市総合計画策定の時点では想定がなかった地方創生の総合戦略が今後全国的に展開されることから、第 5 次朝霞市総合計画における想定よりも社会移動が減少し、本市の人口増を支えている転入者が少なくなることが見込まれる。仮に今後社会移動が減少し、平成 42（2030）年までに第 5 次朝霞市総合計画における想定よりも 2 割下回った場合、平成 72（2060）年で総人口は 13.4 万人を切る（図 1 の「試算①」）。

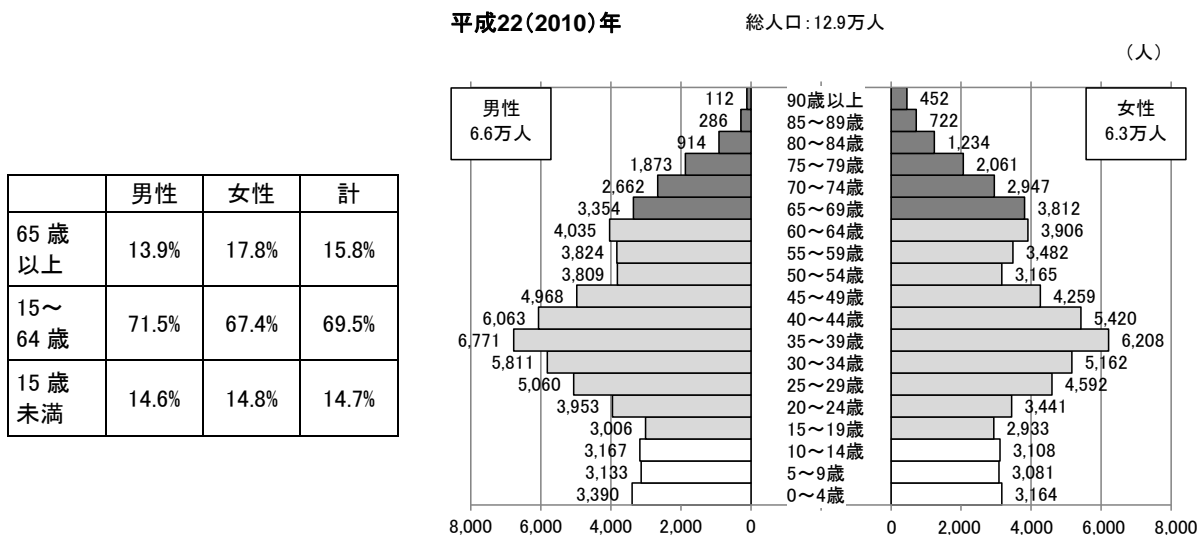
そこで、社会移動の減少を食い止め、第5次朝霞市総合計画において想定したとおりに近年の社会移動の推移を維持することができたとし、さらに、合計特殊出生率を平成 52 (2040) 年までに 1.4、1.6、1.8 へと上昇させることができた場合、平成 72 (2060) 年の総人口はそれぞれ 13.8 万人、14.5 万人、15.2 万人に達することが見込まれる (図 1 の「試算②」、「試算③」、「試算④」)。

表 1：社会移動と合計特殊出生率の条件

	社会移動	合計特殊出生率	平成 72 (2060 年)
総合計画	第5次朝霞市総合計画策定時の傾向で推移することを想定	1.35～1.4 で推移	13.7 万人
試算①	平成 42 (2030) 年時点で想定 of 2 割減に達し、以後一定	平成 52 (2040) 年までに 1.4 に達し、以後一定	13.4 万人
試算②	「総合計画」の条件に同じ	平成 52 (2040) 年までに 1.4 に達し、以後一定	13.8 万人
試算③	「総合計画」の条件に同じ	平成 52 (2040) 年までに 1.6 に達し、以後一定	14.5 万人
試算④	「総合計画」の条件に同じ	平成 52 (2040) 年までに 1.8 に達し、以後一定	15.2 万人

また、総人口の水準を維持するとともに、将来にわたりバランスのよい人口構造を実現することが重要である。前述の「試算②」、「試算③」、「試算④」について、人口構成ピラミッドの詳細変化を図 2、図 3、図 4 にまとめた。合計特殊出生率を 1.6 以上まで上昇させることができた場合、平成 72 (2060) 年における年少人口の各年齢階級の人口を平成 22 (2010) 年現在と同程度の数へと維持されることが確認できる。例えば、平成 22 (2010) 年における男性 0～4 歳は 3,390 人であるが、仮に合計特殊出生率を 1.6 へと上昇させることができた試算③の場合、平成 72 (2060) 年には 3,365 人を見込まれる。

以上を踏まえ、本市は平成 72 (2060) 年に総人口 14.5 万人以上を想定し、総合戦略の施策を展開するものとする。



出典：住民基本台帳人口・世帯数

図 2：平成 22 (2010) 年現在の人口構成ピラミッド

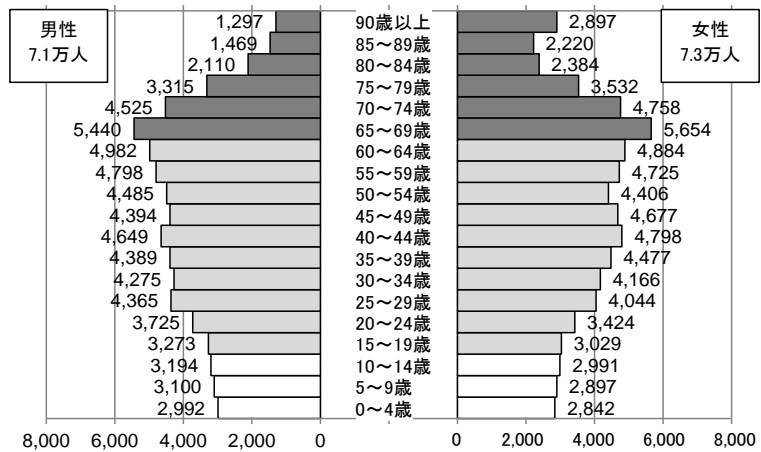
試算②【合計特殊出生率 1.4】

平成52(2040)年

総人口:14.4万人

(人)

	男性	女性	計
65歳以上	25.7%	29.4%	27.6%
15～64歳	61.2%	58.6%	59.9%
15歳未満	13.1%	12.0%	12.5%



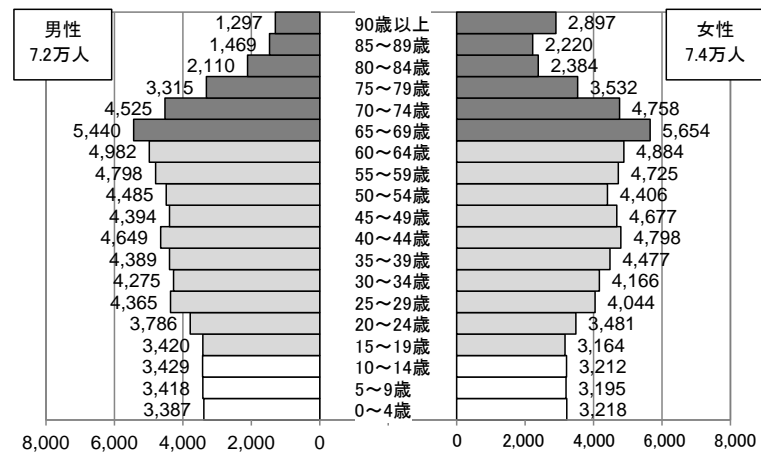
試算③【合計特殊出生率 1.6】

平成52(2040)年

総人口:14.6万人

(人)

	男性	女性	計
65歳以上	25.3%	29.0%	27.1%
15～64歳	60.5%	58.0%	59.2%
15歳未満	14.2%	13.0%	13.6%



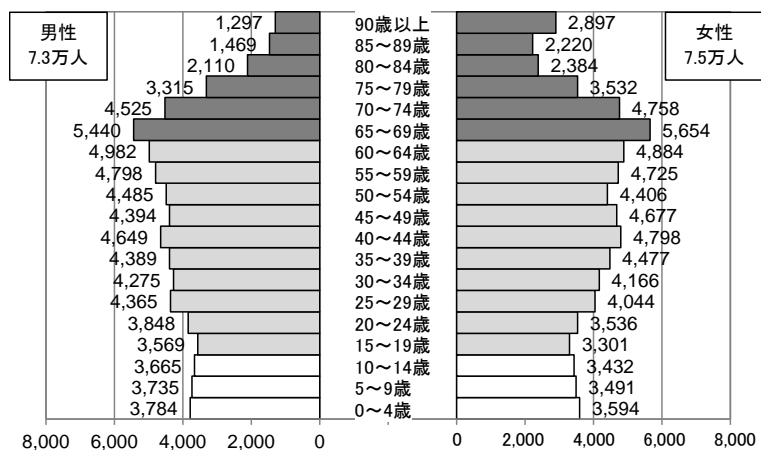
試算④【合計特殊出生率 1.8】

平成52(2040)年

総人口:14.8万人

(人)

	男性	女性	計
65歳以上	24.8%	28.6%	26.7%
15～64歳	59.9%	57.4%	58.6%
15歳未満	15.3%	14.0%	14.7%



注) 社会移動は第5次朝霞市総合計画策定時の傾向を推移  
 図3:平成52(2040)年の推計値に基づく人口構成ピラミッド

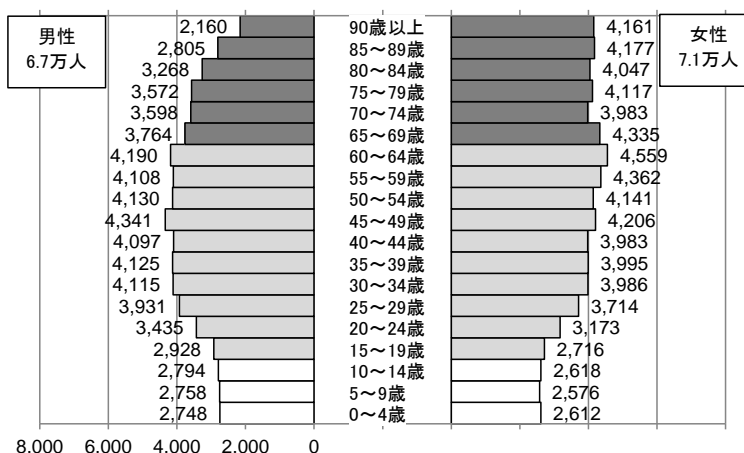
試算②【合計特殊出生率 1.4】

平成72(2060)年

総人口:13.8万人

(人)

	男性	女性	計
65歳以上	28.7%	34.7%	31.8%
15～64歳	58.9%	54.3%	56.6%
15歳未満	12.4%	10.9%	11.6%



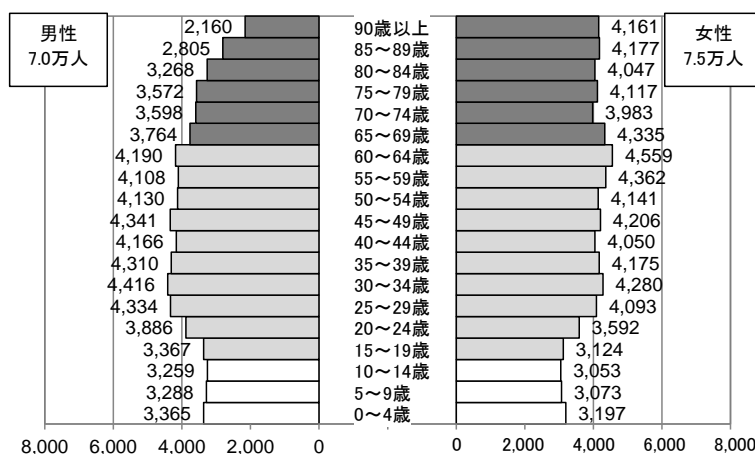
試算③【合計特殊出生率 1.6】

平成72(2060)年

総人口:14.5万人

(人)

	男性	女性	計
65歳以上	27.3%	33.2%	30.3%
15～64歳	58.6%	54.3%	56.4%
15歳未満	14.1%	12.5%	13.3%



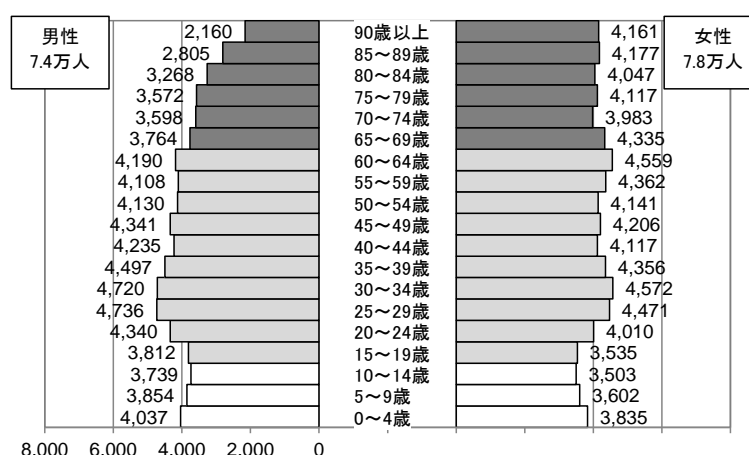
試算④【合計特殊出生率 1.8】

平成72(2060)年

総人口:15.2万人

(人)

	男性	女性	計
65歳以上	25.9%	31.8%	28.9%
15～64歳	58.3%	54.2%	56.2%
15歳未満	15.8%	14.0%	14.9%



注) 社会移動は第5次朝霞市総合計画策定時の傾向を推移

図4:平成72(2060)年の推計値に基づく人口構成ピラミッド

